

PTA総会 校長挨拶 [平成30年2月17日(土)]

本日は、授業参観、PTA総会、学年懇談会にお集まりいただきまして、ありがとうございます。「2月は逃げる、3月は去る」と言われますが、今年度の授業日も、3年生は残すところ16日、1・2年生はあと23日です。「少年老い易く学成り難し、一寸の光陰軽んずべからず」と言われますように、義務教育の最終段階である中学校での日々の学びを、子どもたちには大切にさせていきたいと思ひます。

先日、保護者の皆様には、今年度の学校評価の結果をお知らせいたしました。お忙しいところ、アンケートへのご協力をいただきまして、ありがとうございます。学校評価のアンケート結果では、「楽しく学校へ通っている」、「将来の夢や目標(志)をもっている」、「何事にも積極的に取り組んでいる」と回答した生徒や保護者の割合が9割を超えました。一方では、学校での学習はもとより、家庭での学習を充実させていくことが課題となっております。今後学校では、授業の質的改善はもとより、朝や昼の10～15分間を使った学習に関する多様な取組、放課後の学習会などを推進してまいります。また、家庭学習の充実にあたっては、学校での取組を核としながらも、家庭や地域が、子どもたちの「心の支え」、「環境づくり」、「習慣づくり」の役割を果たすことが大切だと言われております。現代の子どもたちは、ゲームやスマホなど誘惑の多い環境の中で、家庭学習に取り組んでいます。だからこそ子どもたちには、自分で学習や生活を改善する力、すなわち「自己マネジメント力」が必要となります。学校、家庭、地域がそれぞれの役割を果たし、家庭学習を通じて、「自己マネジメント力」を育むことができれば、子どもたちの可能性は大きく広がっていくものと思ひます。

さらには、東日本大震災及び原発事故を経験した本県だからこそ、どんな困難な問題に対しても、強い志と使命感を持って挑戦し続ける「主体性」、多様な他者と共に力を合わせる「協働性」、新しい生き方・産業・社会をつくりだしていく「創造性」を子どもたちに育みたいと考えています。「主体性」、「協働性」、「創造性」といった、これからの時代に求められる資質・能力を育むためには、学校を核とした地域社会全体で、協働型の教育を推進することが必要です。これからも、都路ブランドの魅力ある教育活動を展開できますよう、PTAの皆様のご支援をいただければと思ひます。

本日のPTA総会並びに学年懇談会では、本年度の事業や取組を振り返り、次年度への課題や改善点をチーム都路として共有し、子どもたちの健全育成はもとより、私たち大人も学び繋げていけるようにご協力いただければ幸いです。本日はどうぞよろしくお願いいたします。